

沖縄からの平和アピール（案）

72年前の太平洋戦争末期、沖縄に上陸した米軍と日本軍の激しい地上戦が行われた。

地形が変わるほど凄まじく降り注ぐ爆弾と、嵐の如く吹き荒ぶ砲撃による沖縄戦はこの世の地獄と化し20数万人の尊い命を奪い、自然豊かな島々「沖縄」を無残な焦土と変えた。

戦闘による民間人の犠牲者数は、軍人のそれを大きく上回る。

今日、私たち連合は、沖縄戦で亡くなられたすべての人々に心から哀悼の意を捧げ、戦争がもたらした惨劇と非人間性の実相を強く心に刻し、鎮魂と不戦の誓いを新たにします。

戦後の沖縄は、米軍占領に続き「サンフランシスコ講和条約」により、日本より切り離され、1972年5月15日の本土復帰に至るまで、27年間におよぶ米国軍施政権下に置かれた。

「銃剣とブルドーザー」による土地の強制収容は、今日に至るまで沖縄県の過重な米軍基地負担につながる事となり、「米軍基地に依存して生きざるを得ない沖縄」との誤った情報を引きずる基となっている。

国土面積のわずか0.6%に過ぎない沖縄県において、全国の米軍基地の70.6%が集中している。また、陸上だけでなく、沖縄県及びその周辺には、水域27カ所・空域20カ所が訓練地域として米軍管理下に置かれ、漁業への制限や航空経路への制限がある。米軍基地があるゆえに起こる事件・事故などで生命・人権・財産が脅かされ続けている。

日本政府は世界一危険な普天間基地の移設先は辺野古が唯一の解決策と政治的に決めつけ、今後100年、200年も使われると言われている新基地建設に向け、県民の思いや願いを聞くことをせず、強硬に名護市辺野古沿岸部を埋め立てる護岸工事に着手している。

平和な社会の実現で労働運動は成り立つ。連合は国民が安心・安定して暮らせるよう、「在日米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を政府に改めて強く求める。

「2017年平和行動 in 沖縄」に結集した私たちは、「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」を学び、今後も粘り強く平和運動を推進することをここに誓い合いアピールとする。

2017年6月23日

連合2017平和オキナワ集会